

第33回日本医療薬学会年会について

会期：2023年11月3日（金）～ 5日（日）

場所：仙台国際センター

【シンポジウム概要】

医薬品の供給不安問題を解決するための議論をどこで、誰がすべきかを考える
～医薬品供給情報の共有と透明性を高めるために～

日時：2023年11月5日（日） 9:00～ 12:00

座長：室井 延之 氏（神戸市立医療センター中央市民病院）

四方 敬介 氏（京都府立医科大学付属病院）

演題：医薬品の供給不安問題を解決するための議論をどこで、誰がすべきかを考える～医薬品供給情報の共有と透明性を高めるために～

演者：室井 延之 氏（神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部）

演題：医薬品の供給不足の院外処方との問い合わせに対する影響と問い合わせ対応の簡素化プロトコールの有用性

演者：高瀬 友貴 氏（神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部）

演題：医薬品の供給不足に直面する現状と薬局チームの対応力

演者：廣田 有紀 氏（株式会社九品寺ファーマセいら調剤薬局）

演題：医薬品の安定供給に係る行政の取組

演者：浅野 智央 氏（厚生労働省医薬産業振興・医療情報企画課）

演題：ジェネリック医薬品の信頼確保に向けた日本ジェネリック製薬協会の取組について

演者：川俣 知己 氏（日本ジェネリック製薬協会副会長）

概要： 議論に先立ち、神戸市立医療センターの室井氏より、「医薬品の安定供給に関する問題に関しては、行政、製薬企業、卸、医療機関、薬局のどこかが欠けても患者さんのもとに薬が届かない。それぞれが情報を共有し、透明性を高めていかなければならない。不利益を被っている患者さんの為に、本日は色々議論して、何らかの糸口になればと期待している」との本シンポジウムの目的が述べられた。

その後、病院薬剤師の立場から神戸医療センター高瀬氏、調剤薬局の立場から、せいら調剤薬局の廣田氏より、病院や調剤薬局で起きている薬不足への課題と対策についての講演があった。また、厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課からは浅野医薬品確保対策専門官が登壇され安定供給に向けた国の取組について、日本ジェネリック製薬協会からは副会長の川俣氏が安定供給に向けた協会および個社の取組についての講演があり、その後、闊達な議論が行われた。

場内からは、「現状が整理され明らかになった気がしている。話が聞けて良かった」「生産の割り当てなど行政主体で製薬企業の製造する品目数を効率よく減らせないのか?」「薬価が下がりすぎて採算が取れなく生産を止める可能性がないのか」「ABはあってもCは在庫がない、と言ったこともあるので、薬局の在庫を可視化して、患者さんがどこの調剤薬局に行けば良いのかわかるようにしたらどうか」「卸の在庫やメーカーの在庫がタイムリーにわかるようにしてもらいたい」など、非常に多くの質問や意見が交わされ盛況であった。



写真左から：室井氏、川俣副会長、浅野医薬品確保対策専門官、廣田氏、高瀬氏、四方氏